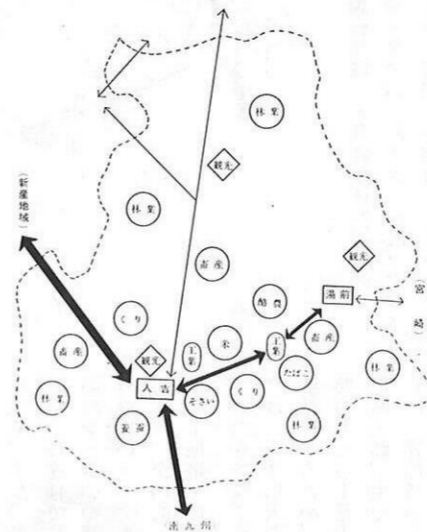


なお、この地域は、大部分が阿蘇火山灰による特殊土壌地帯で、山地荒廃率も高く、集中豪雨の際は、山崩れなどによりまして甚大な被害を与える恐れもある。土地基盤の整備と併行して、治山治水事業や防災体制の強化をはかっていきます。

球磨地域

球磨地域は、九州山脈の主体部分を構成する山林地帯が大部分で、地域の南部を球磨川が東西に貫流し、いわゆる人吉盆地を形成しています。したがって、山村の開発は、この地域の重要課題として忘れてはならない問題でもあるわけですが、しかし、この人吉盆地は、農業地帯として球磨米のほか畜産その他の農業が盛んなところです。球磨川水系は、水源に恵まれているため、従来から洪水調節、発電、農業用水などの目的で総合的な開発が推進され、三十六年には市房ダムが完成し、これに関連する球磨南部土地改良事業も近く完成する予定になっています。またこの地域には、人吉市をはじめとする市街地が球磨川沿いに配置され、商業、行政、教育、農林関連工業、観光など地域経済発展の核となっています。さらに最近、この地域の豊富な労働力や安い工場用地に目をつけて、中小規模の繊維工場の進出が決定し、これか

＜図8＞開発（球磨）地域開発構想図



らの発展が期待されています。したがって、この地域の開発の方向としては、農林業の近代化と立地条件をいかにした商工観光の振興をはかる必要があるわけですが、特に二級国道熊本宮崎線、人吉都城線、人吉河内線、主要地方道人吉宮原線の改良、九州縦貫高速自動車道、奥地産業開発道路の建設促進など交通施設の整備とあわせて、他地域との経済交流を高め、地域資源の開発や工場誘致、観光の開発など経済活動の高度化をはかります。

農業につきましては、南九州の防災営農の性格強化を基本として、土地基盤の整備や土壌改良による秋落ちの防止など水稲栽培の合理化をすすめるとともに、畜産については、未墾地の草地化により肉用牛、乳用牛の多頭化と養豚養鶏の産地化をはかります。その他畑原野の高度利用をねらいとして、くり、そさいの産

地づくりをすすめるとともに、養蚕、たばこ、茶については、経営の合理化と品質の向上につとめます。

林業は、奥地にねむっている天然の老令過熟林の開発をはかるため、林道網の整備拡充をはかり、林種転換による拡大造林、特殊林産物の主産地形成をすすめていきます。

観光につきましては、球磨川くだりや豊富な温泉、五木五箇荘、市房山など特異な観光資源に富んでいるので、これらをつなぐ観光ルートの整備につとめます。さらに、人吉市は、この地域の行政、商業、教育、観光の中心として、地域経済発展の核となるべき地位にあるので、その都市機能の向上をはかっていきます。

なお、この地域は、霧島火山灰などの特殊土壌地帯で、三十八年八月五木地方を襲った集中豪雨は、川辺川水系を中心に多大の災害をもたらしました。したがって、これらの災害の復旧と再災害の発生を防止するため、多目的ダムの建設調査や必要な河川の改修など国土保全事業や防災体制の強化をはかっていきます。

天草地域

天草地域は、下島、上島をはじめ大小一〇〇余の島嶼から成る群島で、本県漁業の中心地であるとともに、主島部分の面積も大きいので、農林業も盛んです。そのほか良質の無煙炭や天草陶石、石灰石、石材など鉱産資源も多く、また海岸美やキリシタン史跡、温泉など観光資源も豊富です。

現在、三角町から大矢野島を経て五つの橋で本土と結ぶ天草架橋の工事がすすめられ、昭和四十一年に完成することになります。これによって、天草地域の主島部分は、九州本土と陸続きになり、二級国道牛深宇土線、主要地方道本渡富岡線、若北河浦線のほか島内道路および港湾の整備とあわせて、この地域の経済活動は、飛躍的に活発化することが期待されています。

したがって、この地域の開発の方向としては、農林漁業の近代化と商工観光の振興をはかる必要があるのです。

この地域の農業は、水稲の二条培土と早期栽培で島内自給の水準に達しましたが、いまやみかんの大集産地として、第二の転期に立っています。天草架橋の完成による交通条件の好転は、この地域の農業の選択的拡大にあらたな契機を与えようとしています。したがってこの地域の農業の基幹を柑橘にしほり、羊角湾

熊本県の将来

経済成長率は一〇%

縮切りによる淡水化、楠浦ダムの建設など恒久的な水資源の開発をはかると同時に米、そさい、畜産の振興をはかります。

林業については、大部分がせき恵林で林地の生産力は低いが、最近暖地の特性を生かした早期育成林業として、モリシマアカシヤの造林が盛んであり、これを柱に林業経営の近代化をはかり、あわせて樹芸林業などの振興をはかります。

漁業は、沿岸漁業が大部分で、経営規模も零細ですが、最近かん水養殖業が導入されつつあり、また真珠養殖の適地も多くなってきました。したがって今後、漁港の整備、漁場の改良造成を行なって沿岸漁業の生産性を高めながら、かん水養殖業など生産性の高い漁業への転換を促進して、企業の漁業経営の創設をはかることにします。

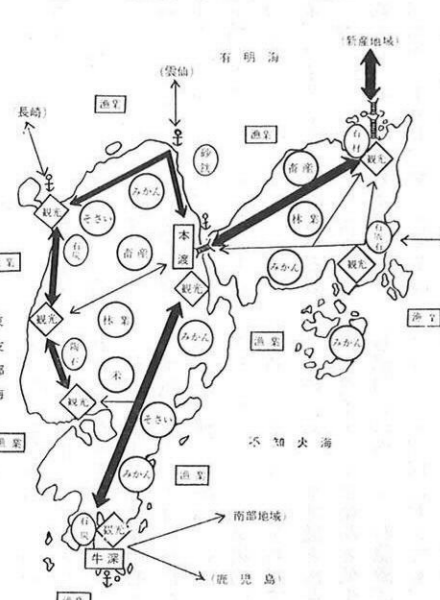
観光につきましては、天草架橋の完成を契機として急速な発展が期待されますので、島内交通施設や観光施設の整備とあわせて、九州横断国際観光ルートにふさわしい拠点の開発をはかります。そのほか、鉱業は、産炭地域振興計画により、石炭産業の合理化をすすめるなど、地域経済活動の高度化をはかるほか、本渡市および牛深市については、産業、教育、行政などの中心として、都市機能の向上をはかります。

なお、この地域は離島であり、地理的にも台風による風水害を受けやすい状態にありますので、治山、防潮林造成、河川改修や海岸保全事業など国土保全事業をすすめる、自然災害を最小限にとどめ、地域産業発展への基礎条件の整備につとめます。

計画期間中の経済成長率を年平均一〇・〇%と見込むことにより、昭和四十五年の県内生産所得は四千七百三十億円と、三十八年の一・九五倍に達するものと考えています。

これは八表5Vのとおり、従来成長部門として計画を上回る実績を示してきた果樹、畜産などを中心とする農業の選択的拡大の方向が今後も続けられるとともに、いままでの投資がその効果を発揮する時期にはいり、また構造改善や価格、流通対策など農林漁業の近代化施策もすすめられますので、これらによって第一次産業の生産所得は一・三八倍に拡大する見通しです。

＜図9＞開発（天草）地域開発構想図



第二次産業では、新

＜表 5＞ 県内生産所得の見通し

産 業	金 額 (億円)			構 成 比			伸 び 率 (%)		
	基準年次 (A)	昭38 (B)	昭45 (C)	基準年次	昭38	昭45	C/A	C/B	左の年率
総 額	1,418	2,426	4,730	100.0	100.0	100.0	333	195	(8.1)
第 1 次 産 業	447	602	830	31.5	24.9	17.5	186	138	4.7
農 業	301	401	600	21.2	16.5	12.7	199	150	6.0
林 業	118	140	150	8.3	5.8	3.1	127	107	0.9
漁 業	28	61	80	2.0	2.6	1.7	286	131	4.0
第 2 次 産 業	306	532	1,360	21.6	21.9	28.8	444	256	14.4
製 造 業	211	312	800	14.9	12.9	16.9	379	256	14.4
建 設 業	63	147	390	4.4	6.0	8.3	619	265	14.9
鉱 業	32	73	170	2.3	3.0	3.6	531	233	12.9
第 3 次 産 業	655	1,292	2,540	46.9	53.2	53.7	382	196	(7.4)

注) 1 金額は、37年価格に換算した。 2 () 内は、全国平均